

漢籍國際會議 二種

福井文雅

I 第七屆中國域外漢籍國際學術會議

漢籍の研究と、漢字文化圏の研究に関する國際會議が二種類、昨年5月に東京で開催された。「國際會議」と言うと、アメリカやヨーロッパの學者も含むのが普通であるが、この「漢籍國際會議」は中國（臺灣）、韓國、日本の三國が中心であったのが特徴である。

會場は東京・早稲田大學國際會議場であった。二種類あった内の第一部會は「第七屆中國域外漢籍國際學術會議」であり、會期は5月7日から8日正午まで、第二部會は「近世漢籍國際會議」であり、前者に引き續いて8日午後から9日晝までであった（九日の會場は文學部第一會議室に移った）。

第一部會は第七屆と銘打っていることから判るように、實は「中國域外漢籍國際學術會議」と言う國際會議の續きであるが、先ずはこれについて説明しておかなければならないであろう。この會議は中國本土の外の諸國に存在する漢籍出版の歴史、現狀、漢籍に係わる研討會で、英語では International Conference on Works in Chinese Outside China と稱する。そもそもの發起人は臺灣大學歴史系の陳捷先（CHEN, Chieh-hsien）教授であり、従って教授が中國側代表であり、臺灣の聯合報文化基金會國學文獻館が主催もしくは共催者の立場で續いて來ている。唯、會場と共催校は會毎に變っており、第1回は1986年9月、會場は明治大學（東京都）であった。その時は漢籍に関するシンポジウム等々の外に、産經新聞社の共催を得て、臺灣での出版物が多數産經ホールに展示された。日本側代表は島田正郎明治大學總長、神田信夫明大教授、町田三郎九州大學教授、笠征福岡大學教授、それに私の5人であった。第2回

は臺北市の『聯合報』9階、第3回は韓國・建國大學園の共催で会場は水安堡のパークホテル、第4回はハワイ大學韓國研究所の共催でプリンス・クヒオ・ホテル、第5回は聯合報國學文獻館と韓國中國學會との共同主催でソウル「總統大飯店」、第6回は聯合報國學文獻館主催で臺北市・國立政治大學教育センターであった。毎回の発表は纏められて國學文獻館から既に公刊されている。また、會議の狀況についても報告が公刊されているので、詳細についてはそれについて見られれば幸いである⁽¹⁾。

そして今回が第7回で、日本國・早稻田大學が國學文獻館と共催することになり、会場も早稻田大學内となった。初回からのいきさつから言えば九州地區で開催されるのが順當のはずであったが、残念ながら別の機會に延期された。

實は偶然なことであったが、(次に述べる)「近世漢籍國際會議」の開催、開催の三年前から早稻田大學の後援によって、蘆田孝昭(早稻田大學文學部教授・中國文學專修)と私(同・東洋哲學專修)とは準備していた。二人とも中國域外漢籍國際學術會議の常連でもある。そこで、この「近世漢籍國際會議」を域外會議に接續して開催する案を我々は考えたのであった。企畫・實行には二人の他に、早大の同僚諸氏や學生諸君の他に次の方々の御協力を得た。「中國域外漢籍國際學術會議」「近世漢籍國際會議」の両方に出席また協力の方々が多かったので、實行委員の方々の尊名を下に一括して掲げることにする。但し、これは開催當日発表したプログラム掲載分であって、實際には他にも司會や議長で御世話になった方々が多々おられた。その方々の名は以下のプログラムの中に順次出て來るであろう。文中「籌備」とあるのは中國語で「準備」の意味である——

日本側

- 1 蘆田 孝昭 早稻田大學文學部教授 (大會代表)
- 2 赤嶺 守 琉球大學教養部助教授 (大會籌備委員兼中國語首席通譯)
- 3 井上 英明 明星大學文學部教授 (近世漢籍籌備委員)
- 4 植田 渥雄 櫻美林大學文學部教授 (近世漢籍籌備委員)
- 5 岡崎 由美 早稻田大學文學部助教授(大會籌備委員)
- 6 神田 信夫 明治大學名譽教授 (域外漢籍籌備委員)

漢籍國際會議 二種（福井）

- 7 興膳 宏 京都大學文學部教授（近世漢籍籌備委員）
- 8 土田健次郎 早稻田大學文學部教授（近世漢籍籌備委員）
- 9 成澤 勝 神田外語大學助教授（大會籌備委員兼韓國語首席通譯）
- 10 福井 文雅 早稻田大學文學部教授（大會籌備會代表）
- 11 前田 繁樹 山村女子短期大學助教授（近世漢籍籌備委員）
- 12 鱒澤 彰夫 早稻田大學文學部助手（大會籌備委員）
- 13 町田 三郎 九州大學文學部教授（域外漢籍籌備委員）
- 14 明神 洋 早稻田大學文學部助手（大會籌備委員）
- 15 森 由利亞 早稻田大學文學部助手（大會籌備委員）
- 16 山田 利明 東洋大學文學部助教授（近世漢籍籌備委員）
- 17 山本 達郎 日本學士院會員（近世漢籍籌備委員）
- 18 山本 明 早稻田大學文學部助手（大會籌備委員）
- 19 笠 征 福岡大學文學部教授（域外漢籍籌備委員）

外國側參加豫定者は次の24名であった。

- 中華民國—1 陳捷先 (CHEN Chieh-hsien) (中國側代表)
臺灣大學歷史系教授
- 2 鄭樑生 (CHENG, Liang-sheng)
淡江大學歷史系教授兼主任
 - 3 張 璉 (CHANG, Rebecca-Lien)
漢學研究中心
 - 4 黃錦鉉 (HUANG, Chin-hung)
國立臺灣師範大學國文研究所教授
 - 5 徐玉虎 (HSU, Yu-hu)
國立政治大學歷史系教授
 - 6 呂士朋 (LU, Shih-peng)
東海大學文學院院長
 - 7 劉兆祐 (LIU, Chao-yo)
東吳大學中國文學系教授
 - 8 尹章義 (YIN, Chang-i)

輔仁大學史學系教授

- 9 莊吉發 (CHUANG, Chi-fa)
國立故宮博物院研究員
- 10 林明德 (LIN, Ming-teh)
輔仁大學中國文學系教授
- 11 王國良 (WANG, Kuo-liang)
東吳大學中國文學系教授
- 12 昌彼得 (CHANG, Peter) — 缺席
國立故宮博物院副院長

- 韓 國—
- 1 朴現圭 (PARK, Hyun-kyu)
韓國順天鄉大學校中語中文學科教授
 - 2 丁奎福 (CHUNG, Kyu-bok)
韓國高麗大學校教授
 - 3 金周淳 (KIM, Jou-soon)
韓國曉星女子大學校中語中文學科教授
 - 4 李楠永 (LEE, Nam-young)
國立漢城大學校哲學科教授
 - 5 洪瑠欽 (HONG, Woo-huem)
韓國嶺南大學校, 師範大學校教授
 - 6 黃元九 (WHANG, Won-koo) (韓國側代表)
韓國延世大學校教授
 - 7 千惠鳳 (CHON, Hye-bong)
韓國成均館大學校, 文科大學名譽教授
 - 8 梁銀容 (YANG, Eun-yong)
韓國圓光大學校教授
 - 9 沈喆俊 (SHIM, Woo-choon)
韓國精神文化研究院, 中央大學兼任客員教授

漢籍國際會議 二種（福井）

「近世漢籍國際會議」参加を主目的にして、アメリカから Mi Chu Wiens 居蜜女史（Senior China Specialist, Asian Division, Library of Congress, U. S. A. アメリカ國會圖書館漢籍特別司書）、イギリスから David Helliwell ディヴィッド・ホリウエル氏（Librarian, Department of Oriental Books, Bodleian Library, Oxford オックスフォード・ボードレイアン圖書館東洋部司書）も來日していた。在日中の王勇杭州大學教授（國際日本文化センター客員研究員）も特別参加の豫定であったが、急用で缺席されたのは残念であった。

ホテルは30名の参加者を同時に宿泊でき、また会場にも近いところとして、地下鐵東西線「門前仲町」から近い江東區深川の「ホテルB & G」を昨年早くから豫約しておいた。

5月6日（水）15時30分に成田着の居蜜女史を蘆田氏が出迎えることから、國際會議は既に始まっていた。夕刻には陳捷先教授一行11人と韓國代表團到着とが別々に到着し、赤嶺守、鱒澤彰夫、成澤勝の三氏が出迎え、夜9時近くホテルにチェック・イン。

5月7日（木）8時30分、主催委員の他、受付や会場整理等々に當る事務局の面々が集合。後世の爲に事務局の構成員を記録しておくならば、總括には岡崎由美、鱒澤彰夫の兩氏が當り、早大大學院の東洋哲學（石合香、閻茁、デアヌ・フロリン）美術史（村松哲文）演劇（平林宣和）中國文學（材木谷敦、北村眞由美、村上かおり）の各専修學生、大正大學大學院中國學專攻學生（孫蘇、福田高德）、そこに早大文學部西洋史OGの吉田妙子が加わって會期中の事務は運営された。用語は中國語と英語、日本語。

會議場は早稻田大學國際會議場（早大總合學術情報センター・中央圖書館内）。開會式は9時50分から、一階の「井深大（まさる）記念ホール」で開催された。

開會の辭—福井文雅（籌備會代表）

早大祝辭—安藤信敏教授（早稻田大學常任理事）

代表挨拶—① 日本—蘆田孝昭（大會代表） ② 中國—陳捷先

③ 韓國—黃元九 (首席通譯—赤嶺守, 成澤勝)

個別發表は次の二部會で行われた。

※ 第一部會 3階第1會議室(内線 71-5190)

座長補佐—Deleanu, 閻苗

座長：黃元九

[發表15分, 質疑10分]

10時30分 ① 千惠鳳 一宋刻板《八十華嚴經疏》其印本

11時 ② 梁銀容 一論韓國佛教公案思想之開展

11時30分 ③ 福井文雅—臺北・故宮博物院所藏般若心經的意義

12時 記念撮影—早稻田大學 大隈庭園内(吉原浩人講師が設營した)

晝食—早稻田大學・大隈會館(完之莊)

座長：蘆田孝昭

13時30分 ④ 丁奎福—《九雲夢》與《九雲記》之比較研究

14時 ⑤ 沈喆俊—關於匪懈堂與香山三體法之研究

座長：呂士朋

14時30分 ⑥ 洪瑀欽 一《芋園家塾續通鑑》簡介

15時 ⑦ 連 清吉—關於龜井昭陽的『家學小言』

15時30分 コーヒー・ブレイク Coffee break

座長：陳捷先

16時 ⑧ 金周淳—朝鮮歌辭中有關陶淵明詩之作品考

16時30分 ⑨ 林明德—《玉樓夢》の花意象

17時 ⑩ 張 璉—《水鏡集》研究……晚明文人之感情世界

～終了

※ 第二部會 3階第3會議室(内線 71-5193)

座長補佐—孫 蘇, 福田高德

漢籍國際會議 二種（福井）

座長：松村 潤（日本大學教授）

- 10時30分 ⑪ 莊吉發—從《李朝實錄》看朝鮮君臣心目中的清朝皇帝
11時 ⑫ 徐玉虎—清册琉使徐葆光著述遺存琉球考
11時30分 ⑬ 町田三郎—依田利用の『韓非子校注』について
12時 記念撮影と晝食—第一部と合流。

座長：福井文雅

- 13時30分 ⑭ 呂士朋—宋明兩代越兩儒學的興盛
14時 ⑮ 黃元九—從李瀾的〈庶人家禮說〉看十八世紀韓國讀書人
對《家禮》的認識

座長：黃錦鉉

- 14時30分 ⑯ 中村璋八—國立中央圖書館藏『禮緯含文嘉』考
15時 ⑰ 王國良—《古文眞寶》初探

15時30分 コーヒー・ブレイク Coffee break

座長：中村璋八（駒澤大學教授）

- 16時 ⑱ 劉兆祐跋—日本元祿十二年刊本《新編群書類要事林廣記》
16時30分 ⑲ 朴現圭—《益齋亂藁》版本考
17時 ⑳ 李楠永—韓儒丁若鏞對《中庸》的發微
～終了

18時 歡迎レセプション（早稻田奉仕園内「アヴァコ・ブライダル・ホール」）
司會—土田健次郎，前田繁樹

5月8日（金）は3階第1會議室で，次の全體會議のみが行われた。

（座長補佐—赤嶺 守，成澤 勝）

座長：町田三郎

〔發表15分，質疑10分〕

- 10時 ㉑ 陳捷先—朝鮮李民寔談明清薩爾滸之戰……評介《柵中日錄》
10時30分 ㉒ 鄭樸生—日本五山禪僧的《論語》研究與其發展

11時 ㉓ 黃錦鉉—龜井昭陽之《論語語由述志》

座長：福井文雅

11時30分 ㉔ 落合俊典（華頂短期大學助教授）—“Chinese Buddhist Scriptures extant only in the Temple of Nanatsu-dera of Nagora City”：“七寺一切經の文化史的意義”……新出の鳩摩羅什譯『馬鳴菩薩傳』をめぐる

12時 「中國域外漢籍國際學術會議」閉會式 （司會：中見立夫）

閉會の辭—神田信夫

代表挨拶—陳捷先，黃元九（主催校への謝辭も述べられた）

晝食—大隈會館内書院食堂

II 近世漢籍國際會議

この會議は「中國域外漢籍國際學術會議」に直ぐ引き續いて5月8日（金）午後から開催された。事務局はほぼ同じであったが、日本人参加者には相違があり、井上英明、植田渥雄兩教授が新たに參加された。中國、韓國の研究者は自由に參加した。この會議の内容を述べるに先立って、この會議開催までのいきさつを書いておかねばならない。早稻田大學に多大の援助を受けて初めて可能になったからである。

早大は平成4年に國際會議棟を新築するに先立って、平成3年度から特定課題研究助成費（國際共同研究）を新たに設けた。その目的は「國際會議あるいは國際シンポジウムの開催に当たり、準備段階における調査・研究等の経費を補助する」ことにあり、研究補助期間は2年間、採用件数は年間4件以内と定められていた。

蘆田教授と福井は「域外漢籍國際學術會議」の常連であり、第6回の次は日本、特に東京がその開催会場になりそうな噂を早くから聞いていた〔註1参照〕。そこで、「早大でいずれはその準備をしなければなるまい」と話合っていたところであったので、域外漢籍會議に前後して本會議を開催すべく、平成2年4月に兩人相圖って、早速上の早大研究助成に應募したのであった。勿論應募件数は膨大な數に上っていたが、嚴密な書類審査と審査委員十數人からのヒヤリ

ング（口頭審査、福井が出席）を幸いにも通って、我々の研究計畫は認可された。

そこで、中國文學專修の岡崎由美助教授、山本明助手、東洋哲學專修の土田健次郎助教授（職位はいずれも當時）を誘って研究班を組織し、定期的に研究会を開くことにした。この研究班の各人が、日本國內は勿論のこと、中國、アメリカ、イタリア、フランスの漢籍調査に行くことが出来たのは、この研究補助のお蔭である⁽²⁾。

その後には、山本達郎、故榎一雄等々學外の研究者にも参加して頂いて文部省の科學研究費を申請し、本會議の準備にかかるまでになった。その間の研究会では、偶々來日中のローマ大學のベルトウッチョーリ教授、オックスフォード・ボードレイアン圖書館のホリウエル主任司書、興膳宏、小林英明、植田渥雄各教授の研究発表もあり、本會議の準備は着々と進んだのであった。

かくして、昨年（1977）の5月7日（金）～8日（土）正午の間、我々は「第七回域外漢籍國際學術會議」を早稲田大學國際會議場（早大総合學術情報センター内）で開き、それに直ぐ續けて8日午後から9日晝まで「近世漢籍國際會議」を開くことが出来たのであった。早稲田大學當局の多大の御援助に對してここに改めてお禮申し上げねばならない。通譯には岡崎由美、赤嶺守（中國語）、成澤勝（韓國語）、デアヌ・フロリン（英語）、事務には、早大と大正大學の各大學院學生が多數當った。

議事の通行は次のようであった。

5月8日

13時 開會の辭 座長：蘆田孝昭（座長補佐—Deleanu デレアヌ）

13時15分 ① David Helliwell ディヴィッド・ホリウエル

“Chinese Books in 17th.-century Europe; a preliminary study of the Bodleian Library's collection” 「十七世紀のヨーロッパの漢籍：ボードレイアン圖書館收藏圖書試論」（スライド付き）

〔對論者：井上英明明星大學教授〕

14時15分 ② Mi Chu Wiens 居蜜

「明清時期的徽州刻書和版畫」(スライド付き)

[對論者：植田渥雄櫻美林大學教授]

15時15分 ③ 山田利明(東洋大學助教授)

「カリフォルニア大學バークレー校東アジア圖書館 East Asiatic Library of the University of California, Berkeley 所藏の漢籍」

[對論者：田中文雄大正大學講師]

15時45分 コーヒー・ブレイク Coffee break

17時 ④ 井坂清信(國立國會圖書館古典籍・主査)

～終了 「國立國會圖書館所藏和刻本漢籍」

[對論者：土田健次郎]

以上の發表要旨はそれぞれの責任者にまとめて頂き、『東方學』第86輯(今年7月發行)に蘆田、福井兩名代表者の名前で、しかし、各發表責任者も署名入りで報告されている。

19時 清遊二種

5月9日(土)早稻田大學・文學部〔第一會議室〕

10時30分 シンポジウム「近世漢籍と版本」

司會・通譯：岡崎由美, Deleanu デレアヌ

基調講演—David Helliwell ディヴィッド・ホリウエル

Mi Chu Wiens 居蜜 [コーディネーター：蘆田孝昭]

11時30分 「近世漢籍國際會議」閉會

なお、早稻田大學圖書館2階展示室で、早稻田大學圖書館所藏の貴重漢籍が特別展示され、演劇博物館の展示も同時に開催されていた。早大圖書館は大震災と戦災との被害を被っていない古い書籍が多数残っているし、演劇博物館に

は梅蘭芳が來日の折りに残していった京劇の舞臺衣装も收藏されている。漢籍會議二種に出席の方々の爲に、「現在の中國ではもはや制作不可能の衣装と言うことで、戦後多くの中國人がわざわざ見學に訪れている。歐米の演劇關係展示會には必ず出品を依頼される、世界に誇る、唯一無二の博物館」と、私は中國語で會議プログラムに敢えて紹介文を書き添えておいた。

註

- (1) 第一回以來私は参加したので、第2回～第4回までの會議については早稲田大學東洋哲學會機關誌『東洋の思想と宗教』第5號（1988年6月）以降に順次毎年報告を連載した。第5回、第6回については次を参照されたい。

町田三郎 第五回中國域外漢籍國際學術會議（『東洋の思想と宗教』第八號，1991年6月）

〃 第六回「中國域外漢籍國際學術會議」に参加して

（『東方學』第八三輯，1992年1月）

中村璋八 第六回中國域外漢籍國際學術會議（『東洋の思想と宗教』第九號，1992年6月）

- (2) 拙稿『ヴァチカン圖書館訪書記』上・下（『東洋の思想と宗教』第七號，1991年6月號；同九號，93年6月號）。

フランス國內の圖書館にも、宣教師が持ちかえった漢籍または中國關係書籍が残存しているはずである—と私は考えて、フランスの圖書館を五箇所調査した。その時調べそこなった他の地方市立圖書館も機會を見て訪れ、いずれ全體の記録を公刊の豫定である。